

第6回議会報告会での発表内容等（課題別）

（ 北区・東区・中央区・西区：大学生との意見交換
江南区・秋葉区・南区・西蒲区：区自治協議会委員との意見交換 ）

テーマ：「新潟市のまちづくりについて」

課題：①少子化対策，②人口流出，③今後の医療と介護のあり方，④中心市街地の活性化，⑤地域産業の振興，⑥雇用，⑦公共交通のあり方

①少子化対策

（北区）

<現状の認識>

本市の将来推計人口は，減少の一途をたどる。平成 52 年には平成 22 年比で 18%減少し，65 歳以上の割合が 32%増加する。また，合計特殊出生率は，全国平均や新潟県の平均よりも下回っている。

<現状と課題>

- ・女性の社会進出が進んでいる。
- ・大学で学んだことを活かして働きたい。
- ・結婚をする人が減っている。
- ・子育てにお金がかかりすぎる。
- ・男性の育児休暇の取得率が低い。
- ・子育てを手伝ってくれる人が周囲にいない。
- ・相談相手がいない。

<改善点と要望>

- ・育児休業中にも経済的な支援をしてほしい。
- ・子育て支援サービス制度等を広めてほしい。
- ・育児休暇を取りやすい環境をつくってほしい。
- ・出産した後でも出産する前と同じ立場に戻れるようにしてほしい。
- ・子育て世代が気軽に集まれる場所がほしい。

（東区）

<課題>

- 経済的支援
- 子育て支援
- 所得と雇用
- 男性の育児
- 子育て後の社会復帰
- 男女の役割 VS 育児も男女平等

<対策>

- 経済的支援
 - ・若い世帯，子育て世代への経済的支援の充実が必要。
- 所得と雇用
 - ・結婚，子育てには安定した収入が必要であり，そのためにも雇用政策は重要である。

○男性の育児

- ・男性の育児休暇取得のためにもイメージ改善が必要。

○子育て支援

- ・働きながら子育てできる環境づくり。
- ・子育てする親同士の交流の場づくり。
- ・高齢者のボランティアに子育てに関わってもらいたい。

○子育て後の社会復帰

- ・出産，子育て後の仕事への復帰。

○男女の役割 VS 育児も男女平等

※このテーマでは，意見が割れたため両論併記となった。

- ・子育ては男女の役割を守ることで出生率が上がる。
- ・女性の社会進出を伸ばす必要からも，子育て，育児にも男女平等が必要。

(中央区)

- 子どもを育てる環境をメインにして議論をし，男性と女性の子育てできる環境について，個人のみからと集団のみからの両方から検討をした。

<学生ができること>

- ・男女ともに労働形態や環境が急変する中，子育てできる環境づくりのために，労働基準法を学び，法律を武器に子育て参加を円滑にする。
- ・学生はそれだけじゃなくまず知識を学ぶ，要するに教育を学ぶべき。

<政府・企業・社会ができること>

- ・企業努力として男性の育休取得の環境をつくる。
- ・政府は企業に訴えられるように男女雇用の環境づくりをする。
- ・学校行事への育児参加ができるようにする。
- ・育児休暇が取得しやすいようにする。

<家庭と学校がやるべきこと>

- ・男がやるべきことと，女がやるべきことという区別，差別といえるものを教育として幼いころからやるべき。

(江南区)

- ・行政任せになることにも危惧がある。本当に困っているところを行政が見つけ，対策を立ててほしい。
- ・子育てのために収入が十分確保できる対策が必要。子どもを産み育てるには経済的に十分な収入が必要。
- ・少子化対策には政策が必要。
- ・保育園など子どもをあずける環境整備が十分あれば，安心して子どもを産み育てることができる。
- ・地域の中の連携が不足している。
- ・保母が十分に子どもを見ることができるよう，労働条件の改善が必要。
- ・3世代同居ができる行政施策が必要。
- ・子育てにお金がかかりすぎる。
- ・若者が夢を持てる政策が必要。
- ・結婚する人に「自己啓発」セミナーも必要。

(秋葉区)

○出会いの場がない

- ・市の政策で出会いの場をつくるよう政策の中に取り上げてもらう。
- ・お見合いパーティーをたくさん市内につくり，出会いの場をつくる。
- ・学園都市を活かし，出会いの場をつくる。
- ・農業委員会で婚活事業を進める。

○秋葉区には産院がない

- ・市で産院をつくる。
- ・他の区との連携をとれるようにする。

○保育環境の充実

- ・育児休暇が取れて職場復帰のできる企業を増やす。
- ・産休明けの保育をしてくれる施設を増やす。
- ・学童保育の充実。
- ・病児保育可能な施設をつくる。
- ・男性が育休をとりやすい環境をつくる。
- ・核家族化で子育ての仕方がわからない。子育て講座の充実を。

○経済的問題

- ・医療費補助を今以上に充実。
- ・大学卒業までの学費の大幅助成。
- ・第1子から助成金をだし，第2子，第3子と助成金を増やす。
- ・企業の出産費用の充実。
- ・3人以上子どもを産んだ夫婦は大幅減税。

○その他

- ・被災地からの子どもの受け入れ。
- ・子どもが成人するまで離婚できない法律をつくる。
- ・少子化だと親の介護が大変。

(秋葉区)

○少子化対策

- ・子育てと親の介護が重ならない工夫。
- ・団魂の世代と環境が違う。
- ・子どもを増やすための支援。
- ・自然環境の良さをPRして，それを望む若い世代に住んでももらう。

○働く場

- ・終身雇用の崩壊。
- ・漁業，林業，農業分野の雇用制度をつくる。
- ・伝統工芸の職人に対する後継者の育成を。
- ・雇用の場が思うようにならない。
- ・専門的な大学卒でも卒業後の働く場が少ない。
- ・企業誘致を活発に促す。
- ・若者が望むベンチャー企業を誘致すること。
- ・中小企業を倒産させない。
- ・大学，専門学校卒業後の受け皿が限定されていて，ない。
- ・起業を受け入れる土壌がない。

- ・国際化を目指す雇用場所。

○人口減少

- ・人口減少に対応した子どもの育成。
- ・命を育む社会のシステムや意識の向上が必要。
- ・子どもに頼らない制度。

○地域住民

- ・自立できる力をもつ。
- ・地域、住民が多様性の理解を進める。

(秋葉区)

討議内容

1. 少子化問題とその対策
2. 人口流出とその対策
3. 健康寿命維持対策

○少子化について

<問題点>

- ・子育てと教育にお金がかかる。
- ・現在だけでなく将来の子育てに不安。
- ・出会いの場がない。
- ・産科がない。
- ・学校がない。

<対策>

◎子育てに

- ・奨学金を貸付けでではなく給付金にする。
- ・子育て住宅の完備。
- ・子育て制度の充実・大学までの学費の軽減。
- ・夫婦で子育てする環境づくり。
- ・小中一貫校にする。

◎職場づくり

- ・新しい産業の創出。
- ・自由な農業への参加。

○人口流出について

<問題点>

- ・街の魅力がない。
- ・働く場所がない。

<対策>

- ・学校教育で地域の良さがわかるカリキュラムの導入。
- ・地元の良さの再発見と PR。
- ・商店街の活性化。
- ・農産物の直販所の充実。

○健康寿命維持対策

- ・環境を守る（水と空気）。
- ・受診率の向上と保健師さんの訪問。

- ・身近な公園整備。
- ・お茶の間サロンやコミュニケーションの場づくり。
- ・低料金のカルチャー教室の開催。
- ・一人住まい（特に男性）が楽しめる企画。
- ・栄養バランスを考えた料理教室。

（西蒲区）

- ・多くの若者は低賃金であり、子育て世帯では財政的にも大変な状況があり、少子化の要因になっていると考えられる。
- ・対策としては、他の地域から新しく住む人には、財政支援も検討すべき。
- ・子育て世帯には、子ども一人につきいくらかというような支援も。
- ・雇用の場の確保も重要で、起業家の育成のため、行政がプランナーを用意するなどの支援をすべき。

②人口流出

（北区）

<現状の認識>

年齢階層別・理由別県外転入・転出の状況については、職業では20歳代全般、特に20歳から24歳の県外への転出が目立ち、30歳代以降では、転入・転出の人数がほぼ同数となっている。また職業を理由とした人口移動が、転入・転出全体に大きく影響している。学業では15歳から19歳は転出超過となっているが、22歳から44歳では転入超過となっている。

<現状と課題>

①就職について

- ・専門分野や身に付けたスキルを活かす就職先が少ない。（特に市内に限定すると）
- ・学会に参加しにくい。
- ・大都市と比べて、賃金が安い。

②交通について

- ・交通機関が雨風に弱い。
- ・バスと電車の乗り継ぎが悪い。
- ・終電が早い。
- ・生活道路の除雪が遅い。
- ・公共交通機関の料金が安い。
- ・車がないと生活がしにくい。
- ・道が暗くて歩きにくい。（街灯が少ない）

③レジャーについて

- ・豊かな自然を活かし切れていない。
- ・遊ぶところやお店が少ない。
- ・観光掲示板がわかりづらい。
- ・特色のあるレジャースポットが乏しい。
- ・若者が遊べる場所がない。

<改善案と要望>

①就職について

- ・起業できる環境をつくってほしい。

- ・専門性の高い職種が雇用される環境にしてほしい。
- ・大学卒業後、新潟に残る場合の特典制度をつくってほしい。
- ・職場の育児環境を整えてほしい。
- ・就職支援の強化をしてほしい。

②交通について

- ・公共交通における夜間や週末の増便をしてほしい。
- ・公共交通機関の料金を安くしてほしい。
- ・公共交通機関を風雪に強くしてほしい。

③レジャーについて

- ・公園をきれいに整備してほしい。
- ・テーマパークや遊園地がほしい。
- ・アウトレットやレジャースポットがほしい。
- ・安くて美味しいB級グルメの開発をしてほしい。
- ・米や酒等をもっとアピールしてほしい。

④その他

- ・都会に負けない新潟の魅力を発信すること。

(東区)

<問題点>

○大学進学時の人口流出

- ・大学の種類が少ない。
- ・学びたい学科がない。
- ・高校の先生が県外の大学を勧める。
- ・県内情報が少なく大学の良さがわからない。

○就職時の人口流出

- ・新潟の企業の良さを知らない。
- ・どんな企業があるのか知らない。

○交通

- ・関西方面に行きにくい。
- ・新幹線が空港に乗り入れていないなど交通の便が悪い。

○娯楽の少なさ

- ・遊び、買い物の場所がない。
- ・代表的観光地の不在。

○農業

- ・農業は儲からないと思われている。

○魅力、アピール

- ・アピール不足。
- ・新潟の人が新潟の良さを知らない。

<対策>

○大学進学時の人口流出

- ・大学及び学科の増設。
- ・県内大学の良さをアピール。

○就職時の人口流出

- ・県外の大学からの就職を勧める。

- ・若手企業家の育成支援。

○交通

- ・電車の便数を増やす。
- ・モノレールを導入する。
- ・駅を増設する。

○娯楽の少なさ

- ・遊び場やイベントを増やす。
- ・若者が来やすいアウトレットをつくる。
- ・自然を活かした娯楽をつくる。

○農業

- ・農業を活かす取り組み。
- ・稲作体験などを通して、都会の人へ農業の良さを伝える。

○魅力, アピール

- ・港町の良さをアピールする。
- ・新潟の良さを地元の人が理解し、発信していく。

(中央区)

○新潟県の人口流出という問題はいろいろな背景や歴史などを切り口に話し合ったが、人口流出だけでは考えられず、首都圏、雇用の話、国際交流の話など、多岐にわたった。

<出された主な意見>

- ・新潟から出ていく人たちは20代などが多いが、若者たちが1回出たとして、また帰ってくる時、帰ってきにくいのではないかと。
- ・帰ってきにくい理由は、交通の便だったり、新潟での子育ての環境だったりだと思うので、もっと整備するべきであり、それは県や市に頑張ってもらいたい。
- ・新潟をもっとPRして、出ていく人だけでなく、入ってくる人も増やそう。
- ・ゆるキャラのレルヒさんやブリかつ君も頑張ってるが、それらの利用を促進していく。
- ・若者たちは東京に視点が行きがちだが、その視点を新潟へ戻す。
- ・新潟から世界へ視点を向ける。
- ・市民や特に国際交流インストラクターなども多いと思うが、そういった活動を通して子どもたちや若者の意識を変えていきたい。
- ・まちづくりだけでなく、新潟を知るワークショップを小・中・高・大に限らず、小さい子どもから大人に至るまで、今回のこのワークショップができたのもっとできるのではないかと。そういう機会を増やしていきたい。

(秋葉区)

討議内容

1. 人口減少は日本社会の根底を揺るがす重要問題
2. 教育分野でも取り上げて行ってほしい
3. いろいろな問題が絡み合って複雑
4. 人口減少の深刻さをもっと市民に周知すべきである

<問題点>

- ・人口減少・結婚しない若い人が何故結婚しないのか直接的原因と間接的原因がある。
- ・結婚する人が減っている（結婚する男女が減っている）。男女とも仕事が忙しく結婚する余裕がない。
- ・過密労働で出会いの場や時間がない。一方、安定した職場に就けず安定した給料がないので結婚できない。
- ・労働時間のあり方（長時間労働で交流する時間につくれない）。

<環境>（家事・育児）

- ・男性も家事をしないと結婚できない，逆になんでもできるなら結婚しなくてもよい。結婚は男性の負担を減らすものではない。女性が，家事をしなければならぬという昔からの考えは駄目。
- ・子育てに男性も積極的に協力する（家事は，男女とも自立できるような学校や家庭教育）。
- ・家事は，男女平等の負担にすべき。
- ・周りに多くの独身者がいること（焦らない）。
- ・若者の生活を守るシステムがない（労働組合の役割）。
- ・若者の意識（人と人がつながっていると言う実感を持たず成長）。
- ・労働力不足を，外国人に頼ったら今までの日本がなくなってしまう。

<対策>

- ・労働時間のあり方（労働時間の短縮で男女とも遊ぶ時間をつくる）。
- ・成果主義で賃金の悪さが会社の隅々まで広がっている。残業が多すぎるので，持続可能な労働環境づくりが必要。
- ・長時間労働を許さないシステムを社会としてつくりあげる。
- ・多様な人が集まれるサークルづくり。
- ・人口減に本気で取り組む行政の取り組みが必要。

（西区）

- 若い人の流出について考えた時，県外に進学，県外に就職（大卒），県外に就職（高卒）が考えられるが，就職（高卒）を除いて考えた。
- 全員が4年生であることから，県外に就職（大卒）についての理由で考えられることとして
 - ・市内の中小企業を知らない。
 - ・「業界地図」が東京等に本社がある企業に限られている。
 - ・大手企業の数が少ない。
 - ・希望の仕事・職種の幅が狭い。
- その対策としては
 - ・市内中小企業を中心としたB&B（企業間取引）が多いので，「県内企業バージョンの業界地図」があれば良い。
 - ・単位を付けたインターンシップ制があれば良い。
 - ・県内・市内企業のバスツアーが就活前にあれば良い。

（西区）

- 人口流出は，悪いことなのか。
人口流出が続く → 人口構成が変わっていく → 高齢者が増え，高齢者を支える

人が減っていくことが一番の問題ではないか。

○若い人が入ってくる機会は大学等があるので、用意されている。

○なぜ、出て行くのか？

- ・稼ぐところがない。
- ・新潟を見捨てていくよりも、仕方なく出て行く。

○若者流出を止めるために、雇用を生み出す。

- ・新しいことに挑戦することが大事。
- ・新たな起業への支援。
- ・中小企業への支援。

○生活している若い人を応援してほしい。

○新潟市を愛する心と雇用の場は、双方向。雇用の場をどうしていくかが重要。

○働いてもらうように、新潟のPRをしていく。

③今後の医療と介護のあり方

(東区)

<問題>

○病院の問題

- ・どこにあるのかわからない。
- ・アクセスが悪い。

○介護の問題

- ・高齢者が交流する機会が少ない。
- ・介護する設備が少ない。

○健康増進

- ・健康増進のための仕組みが整っていない。

<対策>

○医療

- ・見やすい医療マップをつくる。
- ・医療機関への公共交通機関を整備する。
- ・病院の数を増やす。

○介護

- ・高齢者の憩いの場をつくる。
- ・子どもなどとの世代間交流を深める。
- ・高齢者向け健康教室をつくる。

(中央区)

<話し合った内容>

- ・介護の施設が少ないこと。
- ・介護士の人材が不足していること。
- ・高齢者からの苦情に対する改善策。

<解決策(自分たちができること)>

- ・お金の問題もあるが、お金の問題は行政に任せる。
- ・レクリエーションやイベントなどで交流する機会を増やす。
- ・介護士のイメージアップ。
- ・介護士たちを市民がバックアップする。

(江南区)

<問題点>

- ・在宅医療に関する情報が少ない。
- ・介護と医療の連携ができていないのか。
- ・在宅医療を実施している開業医院や所在地などがわからない。
- ・地域包括支援センターが何をするとところか知られていない。
- ・予防医療の推進が必要。
- ・個人情報守秘義務があるため、どの時点で相談するか判断が難しい。
- ・医療保険の負担が大きい。

<要望>

- ・在宅医療を必要とする人への情報が届くシステムの構築。
- ・利用希望者への相談窓口の設置。
- ・病院と開業医との連携を進める。
- ・民生委員と地域包括支援センターとの連携を図る。

(南区)

<地域の現状・課題>

○介護について

- ・現在どこに、どのような住民が居住しているか、現況把握が十分ではない。
- ・各地域で市営住宅が少ないため高齢者の見守りが難しい。
- ・介護者が高齢化している。
- ・介護施設の若い職員が介護にあたることにより、若い世代と高齢者の交流が生まれて良い結果が出ているが、賃金が低いため職員のなり手がいない。
- ・コミ協や自治会などは介護の担い手となり得る体制ができていないか疑問。
- ・コミ協の母体となる役員は2年位で交代するため機能を果たしきれない。

○医療について

- ・地域における24時間の医療体制が不足している。
- ・集落には医者いない集落もあるため対策が必要。

<論点>

- ・介護のあり方に問題がある。特に法律改正により平成27年から地域、コミ協に任せ（地域力）と良いことを言っているが、それで良いか。
- ・高齢者が地域で介護や医療の必要がなく生き生きと生活するためのあり方。

<今後の方向性>

○介護について

- ・高齢者が地域の中で、生き生きと生活していくためには、生きがいがづくりが重要であり、高齢者の居場所の創出が重要である。

○医療について

- ・健康についての個別指導や健康づくりのための情報発信が必要。

<その他>

- ・医療や介護について行政や議会で担い手をどこに求めていくのか、より実効性のある体制づくりを検討する必要がある。

(西蒲区)

- ・老老介護や一人暮らし老人など対策が必要な人が増加しているが、国民年金の人などは

介護費用負担が大変である。

- ・軽減措置やボランティアのポイント制度などを進めてほしい。
- ・西蒲区ではボランティアの育成を行政としても強化してほしい。
- ・在宅での看取りは理想的だが、医師不足の問題があるので、医師確保を県・市とも強化するべき。

④中心市街地の活性化

(東区)

<課題>

○シャッター商店街化

- ・郊外のショッピングモールへ客が流入している。

<対策>

○シャッター商店街化

- ・飲食店のクーポン、スタンプラリーなど。
- ・空き店舗を居住スペースなどに転用する。
- ・集客力のあるイベントを行う。
- ・商店街への交通網の整備を促進する。
- ・イベントのPRを積極的に行う。
- ・顧客ニーズの把握。
- ・観光客だけではなく地元の顧客にも配慮した環境づくりを行う。

(中央区)

<問題点>

- ・人や物が中央に密集しすぎて、ほんの一部しか活性化していない。
- ・活性化しても、シーズンに限られていて、1年とか数年を通して活性化していない。

<解決策>

- ・楽しそうな公園をつくる。
- ・中心市街地と観光地との連携を考えている行政が、地元商店街スタンプラリーなどによって、人が集まるものを分散させてみる。
- ・住む人のライフスタイルをチェックしそれに合わせた店の営業をしてみる。
- ・行政が動くというよりはそこに住む市民の危機感を喚起させる。

(南区)

<地域の現状・課題>

- ・現在、古町をはじめ商店街はどこも衰退の一途。
- ・地域の産業、農業の発展がなければ商品を買う人もいなくなり衰退していく。
- ・地域間の交流を図る必要がある。
- ・南区は農業が基盤の地域でもあるので、米価の下落などもあるが、販売方法によっては儲かるようになる仕組みづくりが必要。

<今後の方向性>

- ・生き残れる農業、儲かる農業を推進することが市街地の活性化につながる。
- ・アグリパークを活用して、食育をはじめ子どもの頃から農業に親しみ、後継者を育てていくことが必要。
- ・商品のブランド化を図る必要がある。

- ・農家が経営する直売所が市内にはあるが、市外へ出て行くことも必要。

<まとめ>

- ・中心市街地の活性化，地域産業の振興，雇用の充実のためには農業の活性化が必要である。

(西区)

- 人と物が動く必要がある。
- 他県から人を呼んでくる必要もある。
- 何があるか説明できない。
- お米，お酒をプラスのイメージにもっていけるイベントなどの打ち出しを。
- 古町・万代・駅前の連動が必要。
- 街にはお米などのイメージは，ない。街自体に反映させていければよい。
- 連動するにも仕方をどうするか？
 - ・つなげるイベント。
 - ・クオリティー（品質，性質）を高める。
 - ・行政が何をやるか。
 - ・行政以外に何をしてもらうか。

⑤地域産業の振興

(東区)

<課題>

- 外国人
 - ・外国人留学生が少ない。
 - ・イベントなどへ外国の方の参加がもっとあってよいと思う。
- 若者
 - ・遊び場所が少ない。
- 商店街
 - ・シャッター商店街が増えている。
- 農業
 - ・高齢化，後継者不足。
- 防犯
 - ・万代周辺に怖そうな人がいて怖い。
- 東区
 - ・イオンが他の区に比べて小さい。

<対策>

- 外国人観光客
 - ・多言語を使えるスタッフの育成など多言語化への対応を行う。
 - ・海外のクレジットカードが使える環境の整備。
 - ・農業体験プログラムなどの施策をもって外国人労働者を呼び込む。
 - ・旅館，酒蔵など買い物以外の楽しみを提供する。
 - ・ファッション（2.5次元ファッション）を発信する。
- 若者
 - ・若者が伝統文化に積極的に参加する。
 - ・学生と連携する。

○商店街

- ・ローカル TV など商店街のPRを行う。

○農業

- ・新規就農の行政支援。
- ・就職活動に農家も参加する。
- ・農業従事者へ特典をつける。

○意見交換

- ・行政と学生の意見交換を行う。
- ・地域住民と行政の意見交換の場を増やす。

○PR

- ・ネットメディアやテレビ、雑誌などで積極的に広報する。

(西蒲区)

- ・西蒲区は基幹産業が農業だが、農家が減少し、大変な状況なので、小規模農家などに対する救済策が必要である。
- ・市は「農業特区」と叫んでいるが、具体的な施策が示されていない。農家の所得が上がるような施策をもっと考えることが必要。
- ・総合計画特別委員会の意見をみると、産業の育成について具体性がない。議会は、もっと市民との協議を強め、具体的な施策を提案すべき。
- ・西蒲区には間瀬・角田の漁港があるが、内野・松浜も含め、漁業を残すためにも手厚い支援が必要。

⑥雇用

(東区)

<課題>

○地元産業の拡大

- ・観光産業について見るところがない。
- ・伝統工芸などの雇用拡大。
- ・地域の特色を活かした産業。
- ・山間部や農村地域での雇用。

○女性の雇用

- ・出産、子育てで仕事を休む必要がある。

○企業からの情報発信

- ・就職時の企業情報が少ない。

<対策>

○地元産業の拡大

- ・佐渡観光を活性化する。
- ・地元の事を知るための教育を行う。

○女性の雇用

- ・男性の育児休暇を。
- ・企業内で育児についてのセミナーを行う。

○企業の情報発信

- ・企業からの積極的な情報発信を行う。
- ・企業と市がもっと関わりをもって情報の発信を行う。

(中央区)

<問題点>

- ・ブラック企業の見極めが必要。
- ・非正規雇用の拡大。
- ・農業によってニートや引きこもりの可能性がどうなるのか。
- ・金髪を受け入れない現状。
- ・女性の就職率。
- ・地元の就職の魅力のなさ。
- ・人口流出によって地元企業への就職が減っている。
- ・地元で希望の職がない。
- ・新潟に魅力がない。

<解決策>

- ・地元企業が若者にどんどん職を売り込んでいく。
- ・地元企業がまず元気になる必要がある。
- ・職のジャンルを増やす。
- ・その土地独自の面白さを出す。
- ・ひたすら職がないとか新潟に魅力がないという考えではなく、若者が最後まであきらめない。
- ・男性の育休制度の拡大。
- ・労働環境をよりよくする。
- ・観光できる場所をつくりだすなどして、新潟の社会全体で解決する。

⑦公共交通のあり方

(北区)

<現状の認識>

バス利用者が20年間で65%減少し、運行便数が10年間で約20%減少している。また、本市の世帯当たりの乗用車保有台数は政令市でもトップクラスである。

<現状と課題>

○電車について

- ・駅周辺に何も無い。
- ・案内がわかりにくい。
- ・待合室が狭い。
- ・Suicaの使用範囲に限りがある。
- ・終電が早い。
- ・駅前の駐車場が少ない。
- ・本数が少ない。
- ・ホームと電車に段差がある。

○バスについて

- ・利用しやすさに地域格差がある。
- ・段差があって乗り降りしにくい。
- ・料金が安い。

○自動車について

- ・時間帯によって渋滞が起こる。
- ・中心街に駐車場が少ない。

- ・道が狭い。
- ・高齢者の運転が危ない。

<改善点と要望>

○電車について

- ・電光掲示板を増やす。
- ・待合室を広く明るくする。
- ・ICカードの利用範囲を拡大する。
- ・エスカレーターやエレベーターを増やす。
- ・終電の時間を延ばす。

○バスについて

- ・路線や便数の地域差を少なくする。
- ・バリアフリーのバスを増やす。

○自動車について

- ・時間差通勤政策をとる。
- ・パークアンドライドを推進する。
- ・道路を整備する。

(東区)

<課題>

- ・電車もバスも乗り方、乗り場がわかりづらい。
- ・電車は本数が少ない。
- ・バスは値段が高い。
- ・駅から中心街が遠い。
- ・大形駅が無人駅。
- ・遠いと乗り継ぎが大変。
- ・無人駅では5000円札、1万円札が利用できない。
- ・料金が安い。

<対策>

- ・駅のホームの番線と行先を一致させてもらいたい。
- ・バス時刻表の配布。
- ・安く乗れるようにしてもらいたい。
- ・マイカーから公共交通機関への移行を推進してもらいたい。
- ・一日フリーパスの導入。
- ・新潟交通とJRの協力を行ってもらいたい。
- ・自転車を乗せられる車両を導入してほしい。
- ・パークアンドライドの推進。

(中央区)

<BRTについて>

- ・BRTを使って乗り換えても料金が変わらないようにしてほしい、安くしてほしい。
- ・BRTの目的は何か。
- ・乗り換えがわからない。
- ・今の現状で公共交通機関が頼りないため、車に頼らざるを得ない。
- ・バスが時間通りに来ないから、マイカーで移動したり中央区の方へ来たりする。

<あったらいいな，こんな公共交通機関>

- ・運賃が手ごろ。
- ・時間通りにくる。
- ・案内がわかりやすい。
- ・図があって行き先がすぐわかる。
- ・おじいちゃんやおばあちゃんが寒い中で待っているのを，バス停の環境をよくしてほしい。

<結論>

- ・バス関係者だけじゃなく市民も一緒になってやっていくことが大切。
- ・頼りがいのある公共交通機関は何かと考えたとき，今の車社会をどうにかしないとイケない。
- ・車の数は減らないと思うので，その意識を変えることが大切。

(江南区)

○バス利用者の減少について考え，その対策について意見を出し，今後のバス交通のあり方について検討した。

<バスを利用しない原因>

- ・バス停まで遠い。
- ・路線バスの本数が少ない。通勤時間帯の本数が少ない。
- ・乗り継ぎが悪く，目的地までの時間を要する。
- ・バス運賃が高い。
- ・スーパーマーケットへの買い物，病院や区役所など，バス交通が不便。

<バスの利便性を向上させるための方策>

- ・パークアンドライドの推進。
- ・バスのほかにタクシーやJRとの連携利用。
- ・バスのデマンド化

<まとめ>

- ・市営による住民バス・区バスの運営やさらなる公的な補助を求める。
- ・デマンド化した住民バス・区バスの運行。
- ・住民バス・区バス運営への期待。

(南区)

<地域の現状・課題>

- ・区バス，住民バスの双方とも利便性があまり良くないため乗る人が少ない。
- ・南区は車で移動する人が多く便利なバスにならないと車から公共交通にシフトできない。
- ・区バスなど大きなバスを走らせても乗る人が少なく不経済である。

<今後の方向性>

- ・デマンドタクシー（乗合タクシー）を普及させるのが一番良いのではないかな。

<その他>

- ・公共交通に関する地域の声（自治会など）が大切である。
- ・BRTの導入がほぼ確実な情勢だが，BRTにより郊外バスの増便につなげてほしい。

⑧その他

(秋葉区)

主に秋葉区の課題提起を行った。

○総合的課題

- ・人口減・少子化の改善ができるのか。
- ・経済成長・人口増が無理とすれば成長型政策の見直しを。
- ・街のリーダー，次世代の人材育成をどう進めるか。
- ・公共施設の老朽化，費用がかかる。どう計画的運用を進めるか。
- ・全体計画策定作業のテーブルに女性の声を生かす工夫を。男性社会の見直しを。
- ・特色ある各区のまちづくりをもっとしぼり込む必要がある。あれこれ手を出しすぎ。

○単身世帯

- ・家が老朽化して危険。
- ・側溝掃除ができない。

○少子化

- ・子育て支援 産婦人科増設。産科医の確保。
- ・保育所の増設。保母を増やす。
- ・こども医療費の対象引き上げ。「3子以上」廃止。
- ・就学援助の増額。
- ・スポーツ振興。

○人口

- ・婚活の促進。結婚して長く住める街。
- ・新潟に住み，暮らす市民が「新潟自慢」ができるのか，原点に戻る指向を。若者が都会を夢見る背景には親の郷土愛が欠けているのではないか。
- ・働く場所。

○医療・介護

- ・大学医学部設置。医師の定員増。
- ・介護士賃金の支援。介護サービス低下をめぐる市の補助。
- ・市民病院での機能・困難者の受け入れ。

○中心市街地の活性化

- ・商店街を活性化するには駐車場が不足している。
- ・外国人を誘致するには商店街の店員教育が欠けているのではないか。
- ・外国人が気軽に来られるように看板を3ヶ国語に（英語・韓国語・中国語）。表示不足。
- ・シャッター店舗の改修・利用。
- ・郊外開発に歯止めを。
- ・商店街活性化のために，道路を1日おきに片側通行にして一方を駐車場にしてはどうか。
- ・街の中心に大型駐車場を。思い切った取り組みを。

○産業

- ・「港町・新潟」秋葉区ではまったくピントこない。
- ・農業に魅力を感じる都会の若者への補助。
- ・秋葉区の郵便局・NTTを移転して駐車場に。

○公共交通

- ・住民バスの収支率 30%の引き下げ。

(西区)

- 良い所, 悪い所を出し合い, 「住む・働く」, 「交通・買い物」, 「学生がこういうことをしてもらったら良い」, 「観光・新潟県のアピール」, 「しあわせ」の5グループに分けた。
- 特に“しあわせ”について
 - ・人とのつながりを軸に。
 - ・人が集まることで街ができる。それと自然との融合で街ができる。
 - ・駅員がいないくらい人を信じている。
 - ・文化や芸術が盛んな街。
 - ・アルビレックス新潟。
- 上記のことが集まって“しあわせ”に。
- テーマとは関係ないが, 学生の中から「時給は 900 円にしてほしい」という声も出た。

(西区)

- (10年後の) 2024年の新潟をテーマにした。
- 現在の新潟市の特徴は
 - ・中心市街地はパツとしない。
 - ・女性が働くシステムがどうなっているか(就職活動が終わった4年生の意見として)。
 - ・新潟のブランド力・地元愛をもう少し強める → 若者は地元愛が薄いのでは → 好きなところ, おすすめの所がない
- 元からある良い所
 - ・歴史のある所。みなと街。お米やお酒。大きなお祭り(県外に出ても, お祭りには帰ってくる)。古町・万代。
- 街の活性化。
- ブランド力・・・お米・お酒, マンガ・アニメなど。
- 「新潟と言えばこれだよな」と言えるものがあると良い。